

「外部リソース活用研究事業」

研究成果報告書

| | | | | | |
|----------|----|-----|--------|----|-------------|
| 学校 番号 | 29 | 学校名 | 不破高等学校 | 課程 | 全日制・定時制・通信制 |
|----------|----|-----|--------|----|-------------|

| | |
|------|--|
| 研究主題 | <p>平成25年度 総合的な学習の時間（F S T＝不破スピリットタイム）を柱として、就職希望者の多い単位制普通科高校において、地元企業や大学等、外部の教育資源を有効に活用する方法について研究する。</p> <p>平成26年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 カリキュラムにおける各類型の特色づくりを進めるための、外部の教育資源を有効に活用する方法を研究する。 2 総合的な学習の時間（F S T＝不破スピリットタイム）における外部の教育資源との連携のあり方について前年度に引き続き研究する。 <p>平成27年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生徒参加型・考える力育成型の進路学習の、外部の教育資源と連携した実施のあり方について研究する。 2 評価できる目標の設定と外部の教育資源との共有化のあり方について研究する。 |
|------|--|

1 3年間の事業の概要

| |
|---|
| <p>平成25年度 望ましい勤労観・職業観が育っていないことから起こるさまざまな課題を解決すべく、総合的な学習の時間をF S T（不破スピリットタイム）と名称化し、進路学習を計画的・組織的・系統的に取り組むこととした。その柱の一つが外部の教育資源と連携して行う進路学習であり、社会人・職業人として必要とされる基礎的な知識・技能の習得に関する学習機会を充実させ、望ましい勤労観・職業観の育成につなげたいと考え、連携推進の効果的な方法を研究した。</p> <p>平成26年度 卒業後の進路を意識した科目の選択ができるよう5類型（サイエンス・ヒューマン・ライフ・クリエイティブ・ビジネス）を設定し、各類型の特色を打ち出そうと学校全体で取り組み始めた。進路学習も、昨年度に引き続いて同じ研究主題に取り組むとともに、外部の教育資源との連携が各類型の特色づくりにどのように活かせるかも研究した。</p> <p>平成27年度 外部の教育資源と連携した前年度までの進路学習の多くがイベント型・知識提供型であった反省を踏まえ、協同学習・アクティブラーニングの要素を取り入れた生徒参加型・考える力育成型の進路学習のあり方と、連携して行う進路学習を通して「どういう子どもに育てたいのか」という共通認識を生むための、評価できる目標の設定方法及び目的の共有化に向けた仕組みづくりを研究した。</p> |
|---|

2 3年間の取組（実施した内容）

平成25年度（主な実施内容）

1 総合的な学習の時間（FST）における連携

（ア）高大連携事業（6/25・9/24 2年生）

4月に連携協定を締結した岐阜経済大学と連携して実施した。1回目は施設見学、大学紹介後、4つの講座に分かれて講義を受講した。2回目は学生によるパネルディスカッション後、学生とのグループセッションを行った。

（イ）進路講演会（10/29 全学年）

働くことや本当のサービスとは何かを理解し、自己の生き方を見つめ直す契機とすることを目的に実施した。（有）香取感動マネジメント取締役香取貴信様を招き、「私が体験したディズニーマジック」と題して講演していただいた。事前学習として朝読書の時間を利用して講師の著作本を読ませた。

（ウ）地元企業の高校内企業説明会（2/4 1・2年生）

地元企業への理解を深めるとともに、自己の生活を見つめ直す契機とすることを目的に実施した。アルナ輸送機用品（株）、安藤鉄工（株）、（株）エフピコ中部、大垣精工（株）、岡村機工（株）、岐阜東リ（株）、艶金化学繊維（株）の7社に参加していただいた。「キャリア教育コーディネーター事業」としても実施した。

2 その他の場面における連携

（ア）キャリア教育に関する職員研修会（5/27）

羽島市商工会議所職員渡辺憲治様を招き、キャリア教育への理解を深め、「地域に根ざし地域に貢献できる人材」を育成するための進路指導における資質向上を目指すことを目的に実施した。

（イ）インターンシップ（7/30～8/2 2年生希望者）

就業に関わる体験的な学習を通して、主体的に進路を選択し、問題を解決する能力を身につけることを目的に実施した。31名の生徒が14の事業所に分かれて参加した。

（ウ）工場見学（8/5 1・2年生希望者）

大阪シーリング印刷（株）滋賀生産第一工場と（株）エフピコ中部リサイクル工場を見学した。



高大連携事業



進路講演会



地元企業説明会



職員研修会



インターンシップ



工場見学

平成26年度（主な実施内容）

1 研究主題1について

- (ア) 日本史研究（ヒューマン類型） 4回の出前講座
- (イ) 子どもの発達と保育（ライフ類型） 2回の保育園実習
- (ウ) 家庭看護・福祉（ライフ類型） 普通救命講習

2 研究主題2について

- (ア) フリーター・ニートについて考える講話（6/24 2年生）
フリーター・ニートの実態を学び、望ましい勤労観・職業観を醸成することを目的に、岐阜県若者サポートステーションセンター長橋本晃様を招いて実施した。初めての実施であった。
- (イ) 高大連携事業（10/21 2年生）
与えられた課題についてさまざまな角度から検討して自分なりの考えをもつことができることと、課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重することができることの2点を達成目標に「大垣駅前商店街の活性化」をテーマに課題解決学習を実施した。
- (ウ) 『親の心』学習（1/20 1・2年生）
それぞれの保護者の、社会人としての勤労観・職業観や、子どもに対する思いを理解することができることを達成目標に、8名の保護者の協力を得て実施した。この形態で実施するのは初めてであった。
- (エ) 類型別学習会（2/10 1・2年生）
その仕事ならではの魅力や苦労があることが理解できることを達成目標に実施した。自動車整備士・精密部品製造会社経営者（サイエンス）、警察官・消防士（ヒューマン）、保育園園長・調理師（ライフ）、美容師・デザイン事務所経営者（クリエイティブ）、地元企業社員（ビジネス）合わせて11名の類型に関連する職業人を招いた。初めての実施であった。地元企業の高校内企業説明会と隔年で実施予定である。

3 その他の場面における連携

- (ア) インターンシップ（7/28～31 2年生ビジネス類型選択者他）
ビジネス類型選択者は全員参加とした。16名の生徒が7事業所に分かれて参加した。
- (イ) 工場見学（8/6 1・2年生希望者）
味の素冷凍食品（株）中部工場とアルナ輸送機用品（株）を見学した。



保育園実習



高大連携事業



『親の心』学習



類型別学習会



インターンシップ



工場見学

平成27年度（主な実施内容）

1 研究主題1について

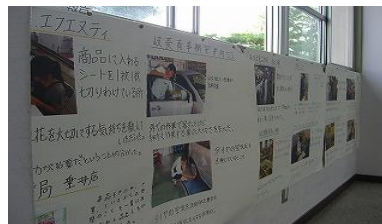
- (ア) インターンシップ（7/27～31 2年生ビジネス類型選択者他）
昨年度同様ビジネス類型選択者を中心に、17名の生徒が13事業所に分かれて参加した。従来の礼状指導等だけでなく、事後学習としてポスターによる報告書も作成、発表をさせて振り返らせた。
- (イ) 高大連携事業（10/20 2年生）
「祭り見物をメインにした垂井町観光プランを立てよう」をテーマに課題解決学習を実施した。今年度は垂井町観光協会とも連携した。南宮大社・真禅院訪問や観光協会長講話等4週にわたる事前学習を経て、岐阜経済大学で発表会を行った。電子黒板を使って発表する2クラスとポスターを使って発表する2クラスに会場を分けて実施した。
- (ウ) 進路ガイダンス（10/27 1年生）
実技・実習を含むガイダンスを受講することによって、それぞれの学問分野・職業分野に対する理解を深めることを目的に実施した。上級学校7校と自衛隊が参加した。

2 研究主題2について

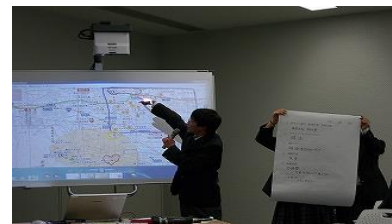
- (ア) 類型別講話（5/26 1年生）
6月中旬に行う履修仮登録に向けて、それぞれの種類の学習内容と学問分野・職業分野との関連を理解することを目的に実施した。上級学校8校とハローワーク大垣が参加した。この進路学習をはじめ、各学年で実施する進路ガイダンスは、平成25年度から仲介業者を一切利用しない形式で実施している。特に、参加予定の県内上級学校には今年度から年度当初に訪問し、目的・内容の共有化を図った。
- (イ) 地元企業の高校内企業説明会（2/16 1・2年生）
地元企業への理解を深めるとともに、自己の生活を見つめ直す契機とすることを目的に実施した。平成25年度に初めて実施し、今回は2回目であった。今年度内定をいただいた企業6社〔岐菱商事（株）・THK（株）岐阜工場・（株）アイジーテック・山田工業（株）関ヶ原工場・松岡コンクリート工業（株）・（社）吉田会養老の郷〕及び多文化共生の観点から清流の国づくり政策課から紹介された浅野燃糸（株）・吉田木材（株）を加えた8社が参加した。



インターンシップ



ポスターによる報告書



高大連携事業



進路ガイダンス



類型別講話



地元企業説明会

◎外部の教育資源と連携した進路学習を行うことで、望ましい勤労観・職業観が醸成されるとともに、地域の一員としての自覚が生まれ、主体的に進路実現を果たそうとする姿勢につながった。

- 11月までに実施した1年生類型別講話・各学年進路ガイダンスにおいて、参加する上級学校やハローワークと目的の共有化を図ったことで、効果的な進路学習が行えるようになり、生徒の進路意識が高まった。特に、ハローワーク本校担当ジョブサポーターの講話は、安易な考えを持っていた一部の就職希望者の希望変更を促すことができた。



岐阜経済大学での面接指導

- 平成26年度から岐阜経済大学を会場にして第3回就職希望者面接指導を行ったことで、就職試験当日に近い状況の中で面接指導を受けられるようになり、多くの生徒が指摘された弱点を克服して就職試験本番に臨むことができた。
- インターンシップ・平成25、26年度に実施した工場見学・平成25（平成26、27年度卒業生が受講）、27年度に実施した地元企業の高校内企業説明会等において、地元企業と連携した進路学習が行えるようになり、地元企業に対する理解が深まった。特に、企業説明会は1、2年生全員が行う進路学習であり、求める人材について企業のトップや採用担当者から直接話を伺い、多くの生徒が自己の生活を見直す契機となった。

【関連資料】

- ・進路希望調査における未定者数及び2年生就職希望者数の変化（第1回4月→第3回11月）

| | | | |
|----------|------------|------------|------------|
| 1年生 | 25年度 17→11 | 26年度 7→5 | 27年度 9→1 |
| 2年生 | 25年度 2→3 | 26年度 5→10 | 27年度 1→7 |
| 2年生就職希望者 | 25年度 38→29 | 26年度 37→29 | 27年度 44→38 |
- ・進路未決定のまま卒業した生徒の割合の減少
25年度卒 6.4%→26年度卒 4.5%→27年度卒 2.5%
- ・第1回就職試験内定率の向上
25年度 50.0%→26年度 58.5%→27年度 89.7%
- ・西濃地区内への就職率
25年度卒 69.4%→26年度卒 84.4%→27年度卒 94.4%
- ・1年後離職率の改善
24年度卒 28.6%→25年度卒 16.7%→26年度卒 11.4%
- ・外部評価結果（よくあてはまる・ややあてはまるの合計 生徒・保護者の順）
質問項目：本校では、外部講師の講演やさまざまな体験活動など授業以外の学習活動の機会が多い
25年度 80.0%・86.7% 26年度 91.6%・91.7% 27年度 82.4%・81.5%

4 課題と今後の対応

◎外部の教育資源との連携をより進め、学習成果を上げるために

<課題>

- ・校内組織の再整備
- ・知識提供型メニューと課題解決型メニューのバランス
- ・郡内小学校・中学校を含む地域との連携強化に向けた取組

<対応>

- ・校内組織の再整備については平成28年度に検討する。
- ・岐阜経済大学と連携して行う課題解決学習は事前学習の回数を増やし、課題に対してより幅広く、深く追究できるようにする。また、発表方法についても生徒の主体性がより発揮できる形態とする。
- ・特に、連携協定を締結している垂井町とは実施可能な連携に向けた具体的な協議の場を設ける。

5 平成28年度以降も継続する取組

◎F S Tにおける外部の教育資源と連携した進路学習

- ・1年生類型別講話・各学年進路ガイダンス
- ・岐阜経済大学との高大連携事業
- ・支援セミナー・年金セミナー・消費者教育講座
- ・『親の心』学習会
- ・類型別学習会（地元企業の高校内企業説明会と隔年で実施）

◎その他における連携

- ・ビジネス類型選択者を中心としたインターンシップ
- ・就職希望者面接指導（岐阜経済大学・PTA）
- ・進路に関する職員研修会

6 成果の普及（予定を含む）

◎F S Tにおける外部の教育資源と連携した進路学習及びその他における連携

- ・株式会社J Sコーポレーション2月発行の『Joint-Success』に本校の進路指導の実践例が掲載される。
- ・本年度までの事業報告を平成28年3月までに本校ホームページに掲載し、周知を図る。

7 自校の成果を他校が活用する場合の留意点等

◎外部の教育資源との効果的な連携システムの確立のために

- ・学校文化の限界を認識し、外部の教育資源の活用（本物・一流・専門的知見に触れる機会の設定）はそれを補完するものであるという意識が一つ目の大前提となる。
- ・「連携ありき」という手段の目的化とならないよう、自校の生徒にはいかなる経験をさせたいのかという「自校では」意識が二つ目の大前提となる。
- ・外部の教育資源の多様性やキーパーソンを理解し、自校において可能となる実践活動のメニューを常に探しておく。
- ・外部の教育資源の行う実践活動と自校が抱える教育課題との擦り合わせを行い、担当者同士の事前協議による相互理解をもとに、それぞれの進路学習における目的（身につけさせたい力）の明確化と共有化を図る。
- ・異校種間や地域との連携を図る上で両者にとってメリットのある連携協定を締結する。（本校の場合、平成25年度に岐阜経済大学、平成26年度に垂井町とそれぞれ連携協定を締結）
- ・学校単位だけでなく、西濃圏域キャリア教育推進協議会のような地域単位のネットワーク体制を構築する。